全ての基地をなくそう！

琉球新報
THE RYUKYU SHIMPO

元海兵隊員を逮捕

北部で女性遺体

うるま女性不明　県警、遺棄容疑

うるま市大田の会社員島袋里奈さん（20）が4月28日から行方不明になっている件で、県警は1日夕、後、重要参考人として任意で話を聞いていた元海兵隊員の米軍属の男（32）＝与那原町与那原＝を死体遺棄容疑で緊急逮捕した。男の供述に基づき、本島北部で女性の遺体を発見した。近く遺体が島袋さんかどうかの確認を進めている。

県警によると、男の車内の血痕や、9日に容疑を認めて、ごくらくなどに出掛けて、なくて、連絡がつかなくなった。島袋さんは自宅に服帯や財布などを残していた。服帯は引きちぎられたような状態で、現場は不審な点が多いとみて事件性を強く調べている。

捜査関係者によると、遺体は発見時、行方がわからなくなっていた。男性が28日午前9時ごろ、無線通信アプリLINEを通じ、知人女性に「強い憤りを覚える」と発信したとみて捜査を続けている。

男は沖縄県内の米軍基地に勤務しているとみられる。

島袋さんの知人男性は「自分の時ごろ、同居していた女性から島袋さんの携帯電話からの連絡があったが出ない。ウオーキングに出掛けるとの話だった。島袋さんの遺体は見つかっていない。

4月28日から行方不明になっている島袋里奈さん（本人提供）

うるまで出入りする、元海兵隊員の男を乗せているとみられる車両＝31日午前、うるま市大田

詳細はあすの紙面をお読みください　ryukyushimpo.jp　購読のお申し込みは フリーダイヤル 0120-395069

5月20日嘉手納基地前抗議行動。25日にも大規模集会が呼びかけられている

投票で沖大生の意思示そう

学生自治会選挙の投票が進んでいます。「沖大生は戦争・基地に反対なんだ！」という怒りと意思を示そう！

元海兵隊の女性暴行・殺害・死体遺棄は、断じて絶対に許せません。アメリカにいくら再発防止策を要請しても繰り返される事件。根本解決は全基地撤去しかありません！

この事件に対して安倍は、女性遺体発見直後は何もコメントせず、翌日あわてて「強い憤りを覚える」とコメントしました。政府関係者からは「（事件は政局的に）最悪のタイミング」の言葉。ふざけるな！　安倍政権にとっては、私たちの命や安全よりも、伊勢志摩サミットやオバマ広島訪問、７月参院選挙の方が大事なのか！

嘉手納基地前や辺野古、首相官邸前で安倍政権への怒りが爆発しています。２２日や２５日にも抗議行動が設定されています。

しかし、沖縄大学の教授・職員は、沖大で戦争反対・基地撤去の声をあげる赤嶺知晃くんらを弾圧しています。口先では「悲しい事件だ」と表明しながらも、全沖大生に向かって「ビラもらうな」「投票するな」と恫喝して反戦の声を奪うのです。こいつらが、安倍と一緒に基地を固定化している張本人だ！　５・１６沖大集会＆デモに続き、沖大キャンパスから反戦・反基地の声をあげよう。

5･16沖大集会＆デモには沖大生と全国学生が駆けつけた

全国学生と連帯し、沖大反戦ストライキを実現しよう！　投票お願いします！

沖縄大学学生自治会
mail　okidaijichikai@gmail.com
blog　http://okidaijichikai.blogspot.jp
ブログ

全国からのあかみね統一候補への応援メッセージ

全学連委員長 齋藤郁真くん

どうも、全学連委員長・齋藤郁真と申します。さあ、いよいよ始まりましたね、再建３年目の沖縄大学自治会選挙！

かつて１９７０年代、全基地撤去を掲げた全島ゼネストの先頭に立った沖大自治会。施政権返還後、その力を恐れた日本政府は沖縄大学を廃校にしようとしましたが、７３年～７５年、学生自治会が中心となって大学を運営し、全島的な支援を受けながら存続を勝ちとったといいます。今この時代、まさしくこのような闘いこそが必要なんじゃないでしょうか。デモをやることは重要です。しかし、最も大事なことは私たちが政治を取り戻していくことだと思います。

自治会委員長候補・赤嶺君は、本気でこの社会を変えたいと思って立ち上がった、全学連の誇るべきリーダーの一人です。ぜひ、多くの沖縄大生に自治会選挙をひとつのきっかけに、赤嶺君と話してほしいと思います。そしてぜひ、応援・支持の投票をよろしくお願いします。

東北大学学生自治会

沖縄大学の学生の皆さん、ぜひ、候補の訴えを自分で見聞きし考えたうえで、自分の思いを一票という形で示して欲しいと思います。

皆さんは沖縄大学の生活に希望はありますか？　赤嶺委員長が訴えた現実が皆さんの現実ではないでしょうか。4人に1人の学生の退学、週６日のバイト生活、「沖大生の6割が非正規となる」と公言する教授、自分のためか分からない大学の勉強、そして在日米軍使用基地の7割に囲まれた日常。皆さんはこの現実を喜んで受け入れられるでしょうか。これは沖縄大学生の当然の現実であり続いていく未来なのでしょうか。

この現実を変えようとしているのが候補の人々です。次の労働のための労働を、生活を豊かにするための労働に変える。政府や特定の企業のための学問を、人々の幸福のための学問にしていく。基地の多くを負担する沖縄から、平穏な島沖縄を取り戻す。絶望的な現実に諦めず、そこから希望を創り出す。その力を候補の人々は持っていると思います。

厳しい現実に諦める前に、候補の訴え、思いを聞いて欲しいと思います。この学生自治会選挙を、他ならぬ沖縄大学生の意思と希望を示す選挙とするために、自分の思いを込めた一票をぜひお願いします。

広島大学学生自治会委員長 森田広隆くん

沖大生の先頭に立って闘うリーダーとして、赤嶺統一候補への信任をよろしくお願いします！

ビラまきも集会も署名も禁止＝「見るな言うな考えるな」という学生主体を足蹴にする沖大当局の学生支配。４人に１人の沖大生が経済的事由で辞めざるを得ない環境を改善しようとしないどころか、声を上げさせないことに必死の大学当局の在り方。口先では「基地反対」と学長たちが言っていようとも、沖大の学生支配は軍隊と変わらないのではないですか！？　軍人にだって酒を飲む自由があるけれども、上官の命令が絶対で、軍隊の在り方に口を出すことが許されないのと、なにが違うのでしょうか！？

「学生はそんな支配に屈するようなちっぽけな存在じゃない！学生は未来を担う誇り高い存在だ！」赤嶺統一候補は学生全体の誇り高さを先頭に立って示し続けてきました。それは彼が、沖大生ひとりひとりが怒りをもって立ち上がる存在だと確信しているからです。

沖大は本土復帰の際に廃校攻撃が仕掛けられていましたが、学生自治会の団結のもとで存続を勝ち取りました。沖大を成り立たせているのは名実ともに沖大生なのです！ また、沖縄の労働者階級は、かつて基地で働く労働者を先頭に全島ゼネストを闘い、団結すれば米軍支配であっても打ち破れることを示しています。

私たちは、闘う沖大生と連帯して、オバマ広島訪問反対闘争の先頭に立ちます。口先だけで「核廃絶」を言い、沖縄の基地建設を進め、最新鋭の核開発を進めているオバマと安倍を打倒すべく闘います。

沖大生の決起には学生全体、社会全体を動かす力があります！ともに闘いましょう！